

今日の聖書のことば

5月24日(日) ロマ 1章

キリストのしもべであり、使者であり国々に福音を宣べ伝えることを使命としていたパウロはローマの教会へ手紙を書いた。神は、神に全く信頼しようとしている人なら誰であろうと救うことが出来る。救おうと願っていることをパウロは誇る。

5月25日(月) ロマ 2章

なぜ人は神に正しい関係を与えねばならないのか。パウロは、人間の現状分析から本論に入る。神は人によって見方を変えることはない。善か悪かと言うことが基準である。神の公平さ。救いは労して得られる者ではない。

5月26日(火) ロマ 3章

神は正しい方であるから、神の律法を犯した者を罰せられる。義の要求が満たされない限り、すべての人は死刑の宣告の下にある。イエスは自分いのちをかけて私たちの身代わりとなり、救いの道を用意された。

5月27日(水) ロマ 4章

パウロのこの信仰の原理は、ユダヤ人の父祖であるアブラハムに例をとって実証する。神がアブラハムを受け入れられたのは、彼のよい生活の故ではなく、彼の信仰の故であった。

5月28日(木) ロマ 5章

イエスの死と復活は、私たちの神の御前における新しい立場を与えてくれた。この五章は救いの確かさの賛歌である。罪と不従順は一人の人によって始まった。イエスは罪ではなく、すべての人にいのちを与えに来られた。

5月29日(金) ロマ 6章

神の赦しは、人間のいかなる罪をも赦される。キリスト者となることはキリストと一体となることであり、その死と復活にあずかることである。以前は神に対して死んだ者であったが、今は生きる者です。神に仕えれば、その結果はいのちである。

5月30日(土) ロマ 7章

律法はまず罪を生み出す。次に信者の良心を照らす、罪の支配力を破壊することは出来ない。救いは律法に従うことによっては見いだされない。イエス・キリストだけが私たちを自由にすることが出来る。

ろば No. 1968

2020年 5月 24日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ルカ4:21

イエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたが耳にしたとき、実現した。」と話し始められた。

イエスはお育ちになったナザレに来て、いつもの通り安息日に会堂に入り、手渡された預言者イザヤの巻物を朗読された。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、主の恵みの年を告げるためである。」

読み終えられたイエスは「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。ルカ福音書の記者は、この出来事をイエスの働きの最初の出来事として私たちに伝えます。まずイエスがどなたであるかを私たちに伝えるのです。

このイエスの宣言を、人々はほめ、その口から出る恵みの深い言葉に驚きました。が、彼らの目から見ればイエスは「ナザレの大工の子イエス」にほかなりませんでした。彼の口から出る言葉に不信さえ抱いたことであつたかも知れません。しかし、神はこのイエスを私たちの世界に送り込まれました。そして私たちの救いを全うしてくださいました。預言者イザヤの言葉は実現されました。私たちは神さまの約束がイエスの来臨によって、一つ一つ確かなものとされたことを忘れてはいません。

イエスは預言者イザヤの言葉を通して「主の霊が私の上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主が私に油を注がれたからである」と主からの全権大使として、イエスは来られたことを宣言されるのです。すなわちイエスが神から遣わされた理由、それは「貧しい人に福音を知らせる」ことでした。ここには、「捕らわれている人」「目の見えない人」「圧迫されている人」が並列されていますが、これらは始めに置かれた「貧しい人」の具体例として理解させていただ

くとき、またイエスがこの故郷ナザレで「貧しい人への福音」を語られた意味を考えさせていただくとき、理解させていただくのです。

主イエスはこの地上の生涯の間、よく困っている人を助けられました。悪霊につかれている人、熱病を患っている人、その他いろいろの病気に悩んでいる人など、今日でも主の助けを必要としている人に、暖かい助けの手を差し伸べてください。人々はこのイエスが「自分たちから離れてゆかないようにと、しきりに引き留め」ました。人間は誰でも自分の利益を求めます。

その人々にイエスは、故事を引用して彼らに説明をされました。神は昔、神の選民であるイスラエルを差し置いて、異邦人であるシドンのサレプタの女や、シリアのナアマン將軍を祝福されたことを語られました。このことはイスラエルの人に不快感を与え、これを聞いていた人たちはイエスを町の外に追い出し、町の外れの崖のところへ引っ張って行き、突き落とそうとしました。しかし聖霊は「イエスを人々の間を通り抜けて立ち去らせ」られました。

イエスが来られたのは「貧しい人に福音を告げ知らせる」ためでした。すべての造られた者が神の大いなる救いにあずかることでした。イエスは「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならぬ。わたしはそのために遣わされた」(ルカ 4:43)と言われる。今もイエスは言われるのです。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのものに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11:28)と。イエスはこのために来られ、私たちのいのちのために十字架にかかられました。今こそしっかりとイエスに聞くのです。「主の恵みの年は」は近い。

..... < 聖書の学び・祈禱会 >

神は人を分け隔てなさない 使徒言行録 10 : 9-48

- * 聖書箇所を声を出して読む。
- * 聖書から教えられたことを、30文字で書き留める。

ペテロがヤッファで見た幻は、実にペテロがもっていた神に対する理解を変革させる驚くべき出来事でした。

ペテロは、私たちは、神が選び清められたのはユダヤ人だけで、福音もまた私たちに向けられていると勘違いしていました。しかし、神の御心は違っていた。神は異邦人たちをも、福音のために招こうとしておられる。「神が清めたものを、清くないなどと言ってはならない。」これはペテロと教会の回心の物語です。

ペテロがコルネリオの家に着いたとき、そこには人々が集められていて、驚くべき集会が開かれていました。今やペテロは確信しました。「神は人を分け隔てなさないことが、よくわかりました。」彼がイエス・キリストの福音を家の人たちに語っている間に、彼らの上に聖霊が降られたことのあるしを見ました。神は、神に従う者を通して、大きなことをなされます。

